

都内紅葉を訪ねる

(小石川植物園、小石川後樂園 他)

記

- 日 時：令和1年12月6日(金) 8時50分集合
- 集合場所：所沢駅 池袋行きホーム前方
- 見学場所及び時間：コース全長 約4km (訪問先内約3km)
所沢駅(8:55)…池袋駅…丸の内線茗荷谷駅(9:33)⇒播磨坂
⇒小石川植物園(途中休憩)⇒善光寺坂のクスノキ⇒伝通院
⇒(12:30)中国料理豫園⇒小石川後樂園⇒後樂園駅…池袋…⇒所沢駅
(15:30頃帰着予定)
- 交通費(所沢から)：約1,000円
- 昼食 日中友好会館内中国料理 豫園 03-3816-7823
- 散策先簡単ガイド

<播磨坂>……桜の名所

かつて、このあたりは常陸府中藩主松平播磨守の上屋敷で、坂下には千川(小石川)が流れ、「播磨田圃」といわれた田圃があった。戦後できたこの坂は、播磨屋敷の跡地を通り、「播磨田圃」へ下る坂ということで、「播磨坂」とよぶようになった。

坂の桜並木は、戦後間もない昭和22年地元の人たちが植えたのがはじまりで今では立派な桜並木となっている。

<小石川植物園>……観覧料：一般500円

小石川植物園は植物学の教育・研究を目的とする東京大学の教育実習施設で、「東京大学大学院理学系研究科附属植物園本園」が正式な名称で、国の名勝および史跡に指定されています。

園内約1.7kmのコースを回ります。園内の時間は約1時間とるので、比較的ゆっくり見て回れると思います。



旧東京医学校本館(重要文化財)

この前で集合写真を撮りましょう

小石川植物園は、元々は江戸幕府によって開園された小石川御薬園でした。江戸で暮らす人々のため薬草を育てる目的で、麻布と大塚に薬園を設置しましたが、5代将軍徳川綱吉の小石川にあった別邸に移設したものがこの御薬園です。その後、8代徳川吉宗の時代になり敷地全部が薬草園として使われるようになりました。

◆精子発見のソテツ

ソテツに精子があることが発見された木の分株、银杏の精子発見と共に日本の植物学の偉大な業績です。

◆ニュートンのリンゴ、メンデルのブドウ

ニュートンの生家にあったリンゴの木は接ぎ木によって世界各地で育てられています。メンデルが修道院に在職中に実験に用いたブドウの木の分株もあります。

银杏の精子

明治29年、この银杏の若い種子から精子を発見した。それまで、植物はすべて花粉管が伸長し造卵器に達して受精するものと思われていたので、学界に大きな反響を起こしました。雌花に捕らえられた花粉は、雌花の先にある穴から吸い込まれます。吸い込まれた花粉は穴の奥にある小さな部屋に入り、ここで、精子が作られます。こちらにNHK ミクロワールドの放送をまとめたものがあり動画で見られます。 https://www2.nhk.or.jp/school/movie/outline.cgi?das_id=D0005100132_00000



<善光寺坂のムクノキ>

伝通院と善光寺を結ぶ善光寺坂の上にある樹齢400年ほどのムクノキです。以前この一帯は伝通院境内で伝通院の修行僧沢蔵司が宿っているとされる沢蔵司稲荷の神木です。

時代が経って、いつのまにかムクノキの根元は稲荷の境内から切り離され、道路の真ん中になってしまいました。こうなると、邪魔になります。ところが、何度も伐採が行われようとしたのですが、工事関係者に不慮の事故が続きました。それが祟りだといわれ、伐採はとりやめになったという話が残っています。



〈伝通院（でんづういん）〉…徳川家菩提寺
慶長8年（1603年）に徳川家康の生
母・於大の方の菩提寺となり、家光の
次男亀松が葬られるなど、徳川家の庇
護のもと数多くの伽藍を有する大寺院
となりました。なお、伝通院の院号は、
於大の方の法名「伝通院殿」にちなんで
います。



慶長18年（1613年）には、増上寺の学問僧300人を伝通院に移して僧侶を養成する**関東の18檀林**（僧の学問修行所）の上席となり、常時1,000人の学僧が勉学に励みました。

第二次世界大戦の東京大空襲で小石川一帯も焼け野原となり、伝通院も江戸時代から残っていた山門や当時の本堂などが墓を除いてすべて焼失。かつての將軍家の菩提所としての面影は完全に消え去ってしまいましたが、昭和24年に本堂を再建、昭和63年には新本堂が建立され、平成24年3月には山門が再建されました。

伝通院には**徳川家の墓域**があり、**家康の生母於大の方**をはじめ、**千姫**（秀頼妻・秀忠の長女）、**第3代將軍家光の正室・孝子の方**等が眠っています。

また、江戸時代初の心中を遂げた磯五郎・お初や、急進的な攘夷論で武装蜂起し「生野



の変」の総帥・澤宣嘉、後に新撰組となる浪士隊を編成した中心人物・**清河八郎**など、江戸時代を象徴する人々や、小説家の**佐藤春夫**、**柴田連三郎**（本名斎藤連三郎）など多くの文化人のお墓があります。

伝通院の境内

総ヒノキ造り**山門**、唯一戦火を逃れた「**梵鐘**」、夏目漱石も小説「**こころ**」で描いた**本堂**、堂内に上がって参拝することもできます。

御朱印は、本殿脇の納経所でいただけます。「**本尊阿弥陀仏**」の墨書に三法印が押される本尊の御朱印と、「**無量聖観世音**」の墨書に三法印が押される**江戸三十三観音**の御朱印があります。

境内・墓地参拝図

●傳通院の墓地には、この他にも多くの著名な方のお墓がございます。
詳しくは「カララグラビア」「傳通院略史」をお求め下さい。

●如是我聞



<昼食>

日中友好会館地下1階 中国料理 豫園 12:30～の予定

ランチは4種類の定食が1000円(税抜き)、また麺類も同価格で提供されています。当日メニューを見て決めて下さい。

<小石川後樂園>

小石川後樂園は、都立庭園で。水戸徳川家の上屋敷内につくられた築山泉水回遊式の大名庭園であり、**国の特別史跡及び特別名勝**に指定されている。

寛永6年(1629)、水戸藩初代藩主・徳川頼房が築いた庭園を、嫡子の光圀が改修、明の遺臣朱舜水(朱之瑜)の選名によって「後樂園」と命名して完成させた。園内には、蓬莱島と徳大寺石を配した大泉水を中心に、ウメ、サクラ、ツツジ、ハナショウブなどが植えられ、四季を通じて情緒豊かな景色が広がる。

また中国の文人たちが好んで歌った西湖や廬山も採り入れている。光圀は朱舜水を設計に参加させたといわれており、中国的、儒教的な趣好が濃厚である。

神田上水

神田上水は井之頭池から発する上水で、関口の大洗堰(椿山荘の向かいあたり)で取水された後、小石川の水戸屋敷を通り、水道橋下流で神田川を懸樋で越えて城内に通水されていました。神田上水は、後樂園の北の部分から東にかけて流れており、「神田上水跡」が、現在も後樂園内の北の部分に残っています。水路の幅は、2m程度ありますが、現在水は流れていません。

帰路：後樂園駅より……池袋……所沢帰着 15:30頃予定